

令和7年度 社会福祉法人東御市社会福祉協議会事業報告

地域福祉活動計画や東御市社会福祉協議会第1期総合計画に基づき各種事業を実施してきました。令和6年には、能登半島地震が発生し、人と人とのつながりの希薄化が懸念される中で、災害への備えと日頃からの人間関係や地域づくりの重要性について、地域福祉の視点から改めて深く考える機会となりました。

また、「まいさぼ東御」などの相談支援業務においては、社会的孤立と8050問題、物価高騰による生活困窮、不登校や子育て世帯の孤立、さらには様々な事情により自らの権利を護ることが難しい方への権利擁護支援など、多様化・複雑化する地域課題に対し、地域住民や関係機関と連携しながら、その解決や改善に取り組みました。さらに、東御市から受託したモデル事業である終身サポート事業では、身寄りのない方や生活に不安を抱える方への権利擁護支援をはじめ、安心して地域で暮らし続けられるための支援に取り組みました。

地域福祉活動計画では、社協・行政・関係団体、そして地域住民それぞれの役割を整理・明確化し、地域福祉の推進を目指しています。こうした動きと連動し、東御市社協の経営計画にあたる「第1期東御市社会福祉協議会総合計画」の開始から1年が経過し、計画に基づくさまざまな事業を実施してきました。基本理念を「一人ひとりの豊かな暮らしを未来へ！～つながりを力に、悩み笑える『とうみづくり』に取り組みます～」と定め、地域住民や関係機関、各種団体との連携を図りながら、地域福祉の推進および生活課題への対応に努めてまいりました。

令和7年4月から令和8年3月までに取り組んだ主な事業は、次のとおりです。

I. 組織運営の強化・人材育成

1. 法人組織の運営・体制の強化

(1) 理事会（5回）

回数・開催日	人数	上 程 議 案
第99回 7.5.28（水）	12人	・役員候補者選任要綱の一部改正について
第100回 7.6.9（月）	12人	・令和6年度事業報告及び一般会計決算 ・評議員選任・解任委員会委員の選任 ・評議員候補者の選任について ・任期満了に伴う評議員候補者の推薦について ・評議員会の開催について
第100回 7.6.27（金）	11人	・会長、副会長及び常務理事の選定について ・顧問の委嘱について ・評議員選任・解任委員会委員の選任
第102回 7.12.12（金）	11人	・令和7年度上期事業の概要及び一般会計中間決算の状況について ・令和7年度一般会計補正予算（第1号） ・評議員候補者の推薦について ・評議員会の開催について

第103回 8.3.13（金）	10人	・令和7年度一般会計補正予算（第2号） ・令和8年度事業計画及び一般会計予算 ・評議員候補者の推薦について ・評議員会の開催について
--------------------	-----	---

(2) 評議員会（5回）

回数・開催日	人数	上 程 議 案
第70回 7.4.18（金）	21人	・理事の選任について
第71回 7.6.27（金）	20人	・令和6年度事業報告及び一般会計決算 ・理事及び監事の選任について
第72回 7.1.16（金）	21人	・令和7年度一般会計補正予算（第1号） ・理事の選任について
第73回 8.3.5（月）	21人	・理事の選任について
第74回 8.3.30（月）	18人	・令和7年度一般会計補正予算（第2号） ・令和8年度事業計画及び一般会計予算

(3) 監 査

○税理士による会計指導

決算 令和7年5月14日（水） 中間 令和7年11月12日（水）

○監事による監査

決算監査 令和7年5月21日（水） 中間監査 令和7年11月19日（水）

(4) 支部長会

- ・期 日 令和7年7月18日（金）
- ・場 所 総合福祉センター 3階 講堂
- ・参加者 57人
- ・内 容
 - ① 令和7年度 社会福祉協議会の会費募集について
 - ② 令和7年度 赤い羽根共同募金の取り組みについて



<支部長会議>

(5) 法人内の連携

- ・各種プロジェクト（広報・福利厚生）の設置・推進
- ・グループウェアの導入で、情報共有を図る
- ・地域福祉活動計画及び東御市社会福祉協議会総合計画策定における各部会の開催

2. 自主財源の確保

(1) 社会福祉協議会への寄付

ア. 金銭の寄付

個人 8 人	11 団体	総額 1,615,437 円
--------	-------	----------------

イ. ウェス

個人 3 人	2 団体	合計 16 件
--------	------	---------

ウ. 物品の寄付

個人 20 人	5 団体	合計 25 件
---------	------	---------

介護用品	一般物品		
ポータブルトイレ 1 台	肌着類	マスク	フェイスタオル
シャワーチェアー 1 台	バスタオル	肌掛けタオル	タオルケット
介護用ベッド 1 台	シーツ	タオル	古タオル
車いす 4 台	手作り小物	手作り手芸品	あみものの道具
尿取りパット	版画道具		
オムツ			

(2) 社協会員の加入状況と会費の収納

年度	会員区分	一般会員	賛助会員	法人会員	寄付	合 計
令和7年 実績	人 数	5,604 人	502 人	156 法人	25 件	
	金 額	5,604,000 円	1,006,000 円	1,460,000 円	30,201 円	8,100,201 円
令和6年 実績	人 数	5,724 人	558 人	161 法人		
	金 額	5,722,000 円	1,118,000 円	1,485,000 円		8,325,000 円

3. 研修事業・人材育成

(1) 役員研修

① 社会福祉トップセミナー

- ・期 日 令和8年3月4日(水)
- ・場 所 信州大学工学部(長野市) 3人出席
- ・講演「人口減少で求められる地域ケア提供体制」 講師：五十嵐知嘉子 氏
- ・シンポジウム
「長野県における2040年に向けた福祉サービス提供体制のあり方について」
登壇者：神谷典成 氏 小林功 氏

(2) 職員研修

① 外部研修

安全運転管理者研修会、日常生活自立支援事業推進会議、日常生活自立支援事業専門員研修、コミュニティにおけるソーシャルワーク力強化研修、特例貸付フォローアップ事業説明会、もの忘れネットワーク上小、発達障がい児者における医療と教育と福祉の合同研修会、令和7年度全国福祉教育推進員研修、令和7年度信州パーソナル・サポート事業 階

層別研修【主任】【相談支援員】、生活困窮者自立支援統計システム研修会、令和7年度第60回関東ブロック都市区町村社協職員合同研究協議会、令和7年度自殺対策と他制度等との連携構築に関する研修会、令和7年度家計改善支援部会、LINE・広報全般の研修会（広報委員会と合同）、令和7年度上小ブロック社協役職員研修会、令和7年度就労支援員・就労準備支援事業支援員初任者研修、令和7年度職業紹介セミナー

② 上小ブロック役職員研修

- ・期 日 令和7年11月11日（火）
- ・場 所 丸子文化会館、依水館、かたぎり
- ・参加者 52人
- ・内 容 講演会
「もしもの時に備える力 ～社協職員と福祉避難所～」
施設見学「依水館」、情報交換会

③ 組織内職員研修

- ・職員研修 5回
総合計画の共有、経理研修、感染症対策について、新規事業の共有について、地域の困りごと事例検討会

（3）実習生の受入

社会福祉士資格取得のためのソーシャルワーク実習

長野大学3年	2人（夏季 令和7年8月10日～9月18日 24日間）
佐久大学3年	2人（夏季 令和7年8月7日～9月17日 25日間）
長野大学2年	3人（春季 令和8年2月13日～2月27日 9日間）
佐久大学2年	1人（春季 令和8年2月15日～2月28日 9日間）

4. 職員の講師の派遣・視察受入れ

（1）講師派遣

○講師・実践報告等 登壇者：相談支援係長 佐藤もも子

日程	講演内容	依頼元
9月27日	講演会講師 第36回地域福祉推進町民大会～支え合えるちいきづくり～「今、ひとりになっても大丈夫？～立科で幸せに生きるために今日からできること」	立科町社会福祉協議会
9月30日	研修講師『「まいさぼ」における外国人相談支援の実態と課題に関する調査報告』から今後の実践で活かしたいこと』	長野県国際化協会
12月15日	講演会講師 「身寄りのない高齢者への支援について」	川西地域包括支援センター
令和8年1月22日	研修動画出演「生活就労支援センターまいさぼ 研修動画・支援者用研修動画」	長野県地域福祉部 地域福祉課
令和8年2月2日	セミナー・実践報告 家族の支援が受けられない人へのアプローチ「当事者とともに歩む支援～チーム連携と終身サポート～」	長野県社会福祉士会

令和8年 2月23日	フォーラム登壇 人と猫の問題について考えるフォーラム 上田保健所	上田保健福祉事務所
令和8年 3月16日	学習会実践報告 子どもや子育て世帯の支援に向けた社協と学校等との連携 オンライン学習会 全国社会福祉協議会	全国社会福祉協議会

(2) 視察受入

10月22日	諏訪市・諏訪市社協 視察受入 「まいさぼ東御の事業等について」
12月15日	一般社団法人北海道ねっとわーくヒアリング調査
12月17日	塩尻市・塩尻市社協 視察受入 「まいさぼ東御の事業等について」
令和8年 2月6日	塩尻市議会 視察受入 東御市生活就労支援センター 「まいさぼ東御」
令和8年 2月17日	北星学園大学大学院社会福祉学研究科ヒアリング調査

5. 寄稿・関連記事掲載

11月発行	社会福祉法人長野県社会福祉協議会「ソーシャルワークで一人ひとりの暮らしと地域を共につくる取組を」『福祉だより信州』VOL.830
令和8年 2月発行	長野県上田保健福祉事務所 「動物と福祉のつながあい 実践ヒント集」
令和8年 2月発行	社会福祉法人全国社会福祉協議会 地域福祉推進委員会 「子どもや子育て世帯の支援強化に向けた社協と学校等との連携のポイント～福祉と教育の連携に向けて～」
令和8年 3月発行	社会福祉法人長野県社会福祉協議会「生活困窮者支援と動物支援の実践事例集～支援現場から見える課題と工夫～」



<福祉だより信州 VOL. 830 号> <子どもや子育て世帯の支援強化に向けた社協と学校等との連携のポイント>

6. 苦情対応

・苦情受付状況 苦情受付件数 0 件

7. 連絡調整事業

(1) 民生児童委員協議会との協働

○地域福祉事業の周知・啓発・事業に関する協力

○福祉活動に対する助成金の交付

・福祉委員（民生児童委員）活動費 81 名 405,000 円

・生活福祉資金実費弁償 75 名 225,000 円

○理事会・地区民協定例会・全体会への出席

(2) 社協法人会員の皆様へ社協事業に対する情報提供

○社協広報紙の送付

8. 第1期東御市社協総合計画の推進

1年目の取り組みは、試行錯誤を重ねながら実施しました。各小項目について令和7年度の目標を設定し、3カ月ごとに進捗管理を行い、職員の取り組みに対する意識化や進捗確認の仕組みづくりにつながりました。

評価・結果を見ると、「3（取り組みをした）」以上の項目は、地域福祉部門28項目、相談支援部門25項目、法人運営部門7項目であり、一定の推進が図られました。

また、「1（取り組みができなかった）」および「2（十分な取り組みができなかった）」の項目も、地域福祉部門で15項目、相談支援部門で9項目、法人運営部門で7項目あり、目標項目数の多さや優先順位の整理が課題として明らかとなりました。

今後は、5年間での計画的な達成を見据え、年度ごとに取組項目を重点化・精査し、優先順位を明確にしながら、着実な推進を図る方針とします。

○総合計画職員研修会 4月17日 ○総合計画推進委員会の開催（全5回）

日 程	内 容
7月1日、10月30日、12月2日、 令和8年1月26日、3月27日	・進捗状況の共有 ・進捗における課題の共有



< 総合計画職員研修会 >

○令和7年度の総合計画の令和7年度の目標に対する評価

<1～5の評価基準>担当係・職員による評価

1：取り組みができなかった 2：十分な取り組みができなかった 3：取り組みをした
4：予想よりも上回る取り組みができた 5：予想よりもはるかに上回る取り組みができた

(★)：重点項目

評価	地域福祉部門 (43 項目)			相談支援部門 (35 項目)			法人運営部門 (14 項目)		
		★重点項目	計		★重点項目	計		★重点項目	計
1	7	1	8	2	0	2	1	2	3
2	5	2	7	2	5	7	3	1	4
3	16	1	17	4	6	10	2	4	6
4	8	2	10	11	2	13	1	0	1
5	1	0	1	1	1	2	0	0	0
評価なし	0	0	0	1	0	1	0	0	0
合計	37	6	43	21	14	35	7	7	14

○重点項目を総括

※Ⅱ-(4)については重点項目ではありませんが、多職種連携や人材育成に関する重要な取組みであるため掲載しています。

【Ⅰ 地域福祉部門】

Ⅰ-(1) 住民主体による福祉活動の組織化・仕組みづくり

①既存団体間（行政区・小学校区等の団体）の情報共有の円滑化

コミュニティソーシャルワーカー（CSW）の配置に向けて市との協議を重ねることができたことは大きな成果でした。一方で、新規事業であることから、期待される役割や効果、具体的な展開方法について共通理解を深める必要があることが明らかになりました。

また、協議を進める中で、地域づくりの会や自治会など地区組織との連携のあり方について、より具体的な検討が必要であることを確認することができました。さらに、モデル地区として事業を進める候補地域については、事業開始前から地域との関係づくりや情報共有を進めることの重要性が整理され、今後の事業展開に向けた方向性を共有することができました。

Ⅰ-(3) 高齢者が安心して暮らせる地域づくり

②日常生活における支え合いの仕組みづくり

日常生活における支え合い活動については、サポーター登録者数が49人となり、地域で支え合う仕組みづくりを進めることができました。また、サポーターと利用者とのマッチング件数は123件となり、高齢者等の日常生活を支える活動につなげることができました。

Ⅰ-(4) 子ども・子育て世帯を中心に据えた支援と地域づくり

①地域の中で、地域の人たちに支えられる居場所づくり

地域の中で支え合う居場所づくりについては、見守り支援員の継続的な活動により、支援を必要とする方への見守りや交流の機会を提供することができました。見守り支援員の登録者数は49人となり、支援が必要な方とのマッチングも良好に行われました。

また、関係機関との連携を図る中で、個別課題の解決に向けた支援を進めることができ、新たなサービスの展開にもつながりました。

一方で、学生ボランティアについては単発的な参加にとどまる傾向が見られました。今後は、新

たな見守り支援員やボランティアの確保に向けた周知方法を検討するとともに、継続的な活動につながる仕組みづくりを進め、地域における見守り体制の充実が課題と考えます。

【Ⅱ相談支援部門】

Ⅱ-(1) 生活困窮者自立支援事業を通じた包括的な相談支援体制の構築

①「相談ニーズに対して包括的な相談体制を構築する」

生活困窮者等の自立支援については、家計収支の把握や家計改善支援、就労準備支援事業、多機関による支援会議の開催など、個々の状況に応じた支援を行いました。また、入居保証事業では11件の利用があり、保証人の確保が困難な方の居住支援につなげることができました。

また新たに、「生活福祉総合相談窓口」が設置されたことにより、生活保護の脱却の可能性がある「特定被保護者」に対する支援プランの作成等、生活保護制度と協働して支援を行いました。加えて、生活保護の廃止後も切れ目なく支援する体制ができました。

就労支援では、協力事業所との連携のもと就労体験事業を実施し、体験から就労につながる成果が見られました。また、まいさば上田と共同で協力事業所向けの研修会を開催し、相談者の受入れに関する理解を深める機会を設けることができました。

一方で、就労実績や就労体験件数の向上、協力事業所との継続的な連携強化などの課題も明らかになりました。今後は、無料職業紹介機能や就労体験の活用をさらに進めるとともに、協力事業所とのネットワーク強化に取り組んでいきます。

Ⅱ-(3) 権利擁護支援の体制の構築

①「権利擁護支援の体制の構築」

権利擁護支援体制の構築については、市との協議を重ねた結果、当初の目標設定とは異なる形ではあったものの、「権利擁護支援準備室」の開設に向けた予算化が図られ、東御市における権利擁護支援の基盤となる体制を構築することができました。また、資力のない方も利用できる「終身サポート事業」を立ち上げるとともに、「権利擁護支援運営審査会」を組織し、本人の意思決定を支えるための新たな支援体制の整備を進めました。

さらに、長野県社会福祉士会のセミナーでは当事者に登壇いただき、実際の経験や意見を伺う機会を設けることができました。当事者参画の重要性について理解を深めることができたことも成果の一つです。

今後は、職員研修の実施による権利擁護支援の理解促進を図るとともに、当事者の意見を継続的に取り入れながら事業を推進します。また、ガイドラインや身寄りのない人の課題、終活等に関する普及啓発を進め、本人の意思を尊重した権利擁護支援と多職種によるチーム支援の充実を図っていきます。

Ⅱ-(4) 人と人とのつながりを大事にできるチームづくり

①多職種での事例検討の場を持ち質の向上に努める ②様々に関心を持ち、常に研鑽する

居宅介護支援事業所では、研修会や事例検討を通じて、ケアマネジャーが多様な視点から利用者支援を振り返り、支援の質の向上を図ることができました。また、サービス提供票の届けや担当者会議等において、関係機関と直接情報交換を行うことで、連携を深めることができました。

東御市個別避難計画については、新規作成や更新申請を進めるとともに、出前講座を5回実施し、地域住民の皆さんから地域の様子や課題を伺う機会を持つことができました。

一方で、支援後の経過共有や個別避難計画の優先順位について事業所内で十分な検討を行うまでには至りませんでした。今後は、事例検討や情報共有を継続しながら、利用者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる支援につなげていきます。

【Ⅲ法人運営部門】

Ⅲ-(2) 人材育成と組織内連携による働きやすい職場環境を整える

① 仕事への意欲と向上心をもてる安心した仕組みづくり

人材育成については、年間研修計画を作成し、必要な研修を計画的に実施しました。また、職員の心身の健康を支えるメンタルサポートに関する研修についても、その必要性や実施方法について検討を進めることができました。

Ⅲ-(3) 経営状況の把握と地域福祉活動を行うための財源の確保を検討する

① 経営状況を把握し、事業の見直しを行う

財政運営については、正規職員を対象に法人の財政状況に関する研修会を開催し、経営状況への理解を深める機会を設けました。今後は事業ごとの収支状況を把握し、事業内容の見直しを進めるとともに、市の委託費や補助金について計画的な協議を行っていきます。

Ⅲ-(4) 広報、情報発信を強化し、社協事業の理解に努める

① 住民へ理解しやすいような、事業の見える化をする

広報については、ホームページや SNS 等の情報発信・更新頻度の向上を図りました。また、ホームページ改訂に向けた協議を進め、市民や関係機関にとって分かりやすい情報発信のあり方について検討を行いました。これらの取組みにより、今後の広報体制の強化に向けた方向性を整理することができました。

Ⅲ-(5) 災害等の緊急事態における事業継続計画を整備する

① 緊急時に対する意識の向上、対応について対策する

危機管理については、介護予防事業におけるマニュアル作成に着手し、危機管理体制の整備に向けた取組みを開始しました。今後は法人全体でのマニュアル整備を進めるとともに、訓練等を通じて実効性の確認と改善を図り、より実践的な危機管理体制の構築を目指します。

II 総合相談、支援事業の推進

1. 初期相談の対応及び専門的・継続的な総合相談支援

◆東御市社会福祉協議会として、各部門で初期相談対応・継続的な総合相談を行いました。
詳細は、各相談事業の箇所を参照

◆「人権よろず相談」への協力：計 12 回

◆「みにふえす&まちかどなんでも相談会」

・日時：令和 8 年 1 月 31 日（土）

・場所：東御市文化会館サンテラスホール

今回は、社会福祉大会と同時開催をし、相互に参加できる形で、全市民を対象とした生活の困りごとに関する相談会を開催しました。

当日は、地域に関する相談、子どもに関する相談、高齢者に関する相談、生活に関する相談など、多岐にわたる相談に対応できるよう、東御市福祉課や子どもサポートセンターの協力をいただきました。また、市内の子ども食堂団体や市内のボランティアも参加いただき、子どもの遊び場やカフェコーナーを設けて誰もが気軽に参加できる相談会としました。

・来場者 約 80 名 ・相談者 7 名

・食料・日用品配布 42 件



＜なんでも相談会の会場のようす＞

2. 生活困窮者自立支援事業（東御市生活就労センター「まいさぼ東御」）

(1) 自立相談支援事業（市委託事業）

8,000,000 円

東御市生活就労支援センター「まいさぼ東御」（以下、当機関とする）は、生活困窮者自立支援法に基づき、生活に困窮している、今後その恐れのある方の相談窓口を東御市から受託し運営しました。10 代から高齢者まで幅広い世代の生活課題を受け止め、生活や就労面の自立と課題の改善・解決に取り組みました。

また新たに、「生活福祉総合相談窓口」が設置されたことにより生活保護担当係との連携が強化され、「特定被保護者」の支援を行い、加えて、生活保護が廃止になった後も必要なケースについては、生活保護から引継ぎ当機関で切れ目なく支援する体制としました。

コロナ禍から経済的にひっ迫が続く世帯や物価高騰により、相談件数は増え続けています。若者やひきこもりの人や長期離職者など、生活・就労・社会面の自立支援について、更なる取り組みの充実が必要と考えます。



＜生活福祉総合相談窓口のメンバー＞



＜仕事・生活サポーター研修会＞

<相談件数> *相談員：5人

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
新規相談件数	179件	110件	78件	75件	107件	126件
継続支援件数	延1,264件	延2,003件	延2,126件	延1,787件	延1,787件	延1,828件
プラン作成件数	40件	36件	40件	35件	45件	53件
相談対応件数	延7,284回	延7,348回	延5,984回	延5,113回	延8,424回	延6,917回

<新規相談件数の年齢構成>

	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	不明	合計
令和7年	8	11	21	12	29	25	17	3	126
令和6年	5	13	12	17	16	14	18	12	107

<特定被保護者・生活保護者の支援実件数>

令和5年10月から、特定被保護者と生活保護制度の利用者でまいさぼの相談を必要とする事例について、福祉課と協働して取り組みました。

特定被保護者	28
特定被保護者以外の生活保護者	4

<家計改善、就労準備、子どもの学習・生活以外の法に基づく制度の利用>
制度を利用した実件数

制 度	件 数
住居確保給付金	1
認定就労訓練事業	0
生活保護受給者等就労自立促進事業	16

<プラン作成者の状況>

状 況	件 数	状 況	件 数
経済的困窮	16	コミュニケーションが苦手	4
その他メンタルヘルスの問題	8	就職活動困難	6
家族関係・家族の問題	11	社会的孤立（ニート・引きこもりを含む）	5
病気	6	就職定着困難	6
本人の能力の課題	4	障害（手帳有）	11

<生活・就労支援に関する実績>

○就労者数

	就労者数	製造	農業	サービス	小売	医療・福祉	清掃	運輸	産業廃棄	その他
令和7年	19	8	4	2	0	3	1	1	0	0
令和6年	22	3	5	2	2	8	0	1	0	1

○就労体験事業(プチバイト、プチバイト・プラス)

令和7年10月から、就労支援プロジェクトがプチバイト・プラスに変更になり、重視する目的に応じて金額が設定できるようになりました。

・プチバイト(就職活動応援金付職場体験事業)

体験者数	農業	医療・福祉	その他
7人	2	2	3

・プチバイト・プラス(旧就労支援プロジェクト)

延利用者数 6人 (体験研修型 8件)

利用者実人数	農業	製造	福祉	小売店	清掃	その他
6人	3	0	0	2	0	1

○身元保証・就労支援事業

利用者数：1件、契約締結事業所：1件

○入居保証・生活支援事業

利用者数：11件、契約締結家主：4件

(2) 家計改善支援事業(市委託事業)

5,247,990円

相談者は、障がいや高齢で働く先が見つからなかったり、年金や給与収入が少なく生活費が足りなかったり、ひきこもり等で基本生活費が不足して、お金を借りて一時しのぎをしても、返済の段階で家賃や税金が滞納し生活が回らなくなり、生活困難になっている世帯の相談に応じました。相談者とともに家計状況を明らかにして、再建に向けた意欲を引き出し、出来るだけ生活が整うように支援を行いました。

<利用件数と利用による改善状況>

○プラン作成件数 14件(実人数 13人)

○プラン作成者 性別・年齢

年代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	合計
男	0	0	0	3	2	2	7
女	0	2	2	5	2	0	11

○支援状況 利用人数 38人 (プランの作成者以外も含む 複数カウント)

支援内容	件数	支援内容	件数
家計プラン作成	18	滞納交渉	税金 4
相談時家計表の作成	37		家賃 2

(4) 就労準備支援事業（市委託事業）

15,850,000 円

「ここから」という愛称で、個々の就労への準備期間を支援するために、日常生活自立、社会生活自立、就労自立、の3つの自立段階を踏まえたプログラムを実施してきました。働いて収入を得るという目標だけでなく、居場所や仲間づくり、さらには地域とのつながりを構築しながら、「わたしらしくはたらく」ことが実現できる場として取り組んできました。

<実施状況> 実施期間：令和7年4月～令和8年3月

項目		備考
集団プログラム	計24回・延106人 (実19人)	月2回の定例プログラム
個別プログラム	計48回・延94人 (実16人)	1～3名程度の少人数で実施（ちょこボラ、健康ゲームの会、女子会含む）
地域行事への参加	計5回・延14人 (実5人)	市内開催の行事にチームで参加
仕事・生活サポーター等ボランティアの協力人数・参加延人数	7人・延63人	伴走支援でプログラムに同席、プログラムの企画、情報共有



<集団プログラムの様子>



<ちょこボラの様子>

<利用者状況>

(1) 利用者実人数 24人（支援対象者22人）

※上記の人数に特定被保護者は含まない。特定被保護者の人数、プラン件数に関しては、自立相談支援事業にて報告。

(2) 個別支援計画作成 延10人

(3) 就労者数 延6人（内訳：一般就労4人、障害者雇用1人、福祉的就労1人）

(4) 就労見学・体験者数 延13人（内訳：見学8人・体験5人）

(5) 年代と男女比 ＊年度初回参加時の年齢

	10代	20代	30代	40代	50代	60代～	合計
男性	3	2	4	1	1	0	11
女性	3	5	2	2	1	0	13
合計	6	7	6	3	2	0	24

<実施プログラム> 第1・第3木曜日、1回90分間程度、計24回

*人数はメンバーのみ

	開催日	人数	プログラム名 講師（記載がない回は事業担当者が進行）
1	4/17	5	「習慣のチカラを味方につけよう！」（前半） 「お花見で相互交流会」（後半）
2	4/24	4	「『習慣化』に向けた取り組みを振り返ろう」
3	5/8	4	「人が主役の片づけ ～へや・もの・わたし～」
4	5/22	4	「じぶん日記 はじめの一步 ～“記録”は、わたしの小さな変化を教えてくれる～」
5	6/5	3	「ボッチャを深堀！～楽しさと奥深さを体感しよう～」 講師：東御市社協 日本ボッチャ協会公式審判員 高見沢 心氏
6	6/19	5	「つながるヒント、探してみませんか ～からだを動かすことが難しいひとの事例を通して関りを作る工夫について考えてみよう～」 講師：元長野大学社会福祉学部教授 伊藤 英一氏
7	7/3	4	「“人から学ぶ”って、何だろう？自分自身との向き合い方を見つける時間」 講師：長谷川戦略マーケティング研究所所長 長谷川 正之氏
8	7/17	4	「ゆるっと振り返り茶話会 『ここから』での学びと出会いを、ちょこっとシェアしませんか？」
9	8/8	7	「心と体にやさしい“食のセルフケア”」
10	8/27	6	「伝統和紙のキャンドルライト体験」 講師：和紙作家「手作り屋C-M-Y」吉田 禎氏
11	9/18	5	「事業所見学ツアー ～見学でひろがる“働く”ことを選択肢」 講師：ケアポートみまき 相談支援専門員 伊藤 聡氏
12	9/25	3	「ちょこっと交流・ちょこっと準備」
13	10/9	5	「ハローワークがもっと身近に！～職員さんと先輩の声を聴こう～」 講師：ハローワーク上田 就職支援ナビゲーター 西尾 一枝氏 就労準備支援事業の先輩 金井 隆氏
14	10/23	5	「カードを使ったコミュニケーション」
15	11/6	4	「お話会 自分のことを信じられますか？」 講師：仕事・生活サポーター／市民ボランティア 村山 修氏
16	11/20	3	音楽療法ワークショップ ～音でつながる体験～ 講師：日本音楽療法学会認定音楽療法士／音の和ひろばハピカル 坂本 美夏子氏
17	12/4	4	「わたしの“好き”からちいさな企画をつくってみよう」
18	12/18	4	「『ここから』クリスマス会」
19	1/8	4	「笑い文字で新年のウォーミングアップ」
20	1/22	3	「はたらく場面でのコミュニケーションを練習してみよう」

21	2/5	2	「物語『首飾り』から考える ～遠回りに見える時間にも、きっと意味がある～」 講師：保護司・里親・子ども食堂に携わる地域の支援者 高藤 重男氏
22	2/19	5	「塗り絵の時間 ～こころのゆとりを～」
23	3/5	4	「わたしの物語 ～思い出から、これからへ～」
24	3/19	9	「自分の身体を整えよう！ ～心地よいエクササイズを通して」 講師：姿勢改善スタジオPIT 横山 和貴氏

<地域行事等への参加> チームで計5回参加

	開催日	行 事
1	9/27	「スケッチ大会&アートチャレンジ ワークショップ」
2	10/25	「第19回 福祉の森ふれあいフェスティバル」
3	1/25	「巨大紙相撲大会ワークショップ」
4	1/31	「なんでも相談会」
5	2/21	「巨大紙相撲大会」本番



巨大紙相撲大会ワークショップ
ペガサス社協・準優勝

(5) アウトリーチ支援

地域のなかで困りごとを抱えているが支援機関等につながっていない、社会的孤立の状態である方を対象に訪問支援等を行いました。また、初期相談の中では本人に繋がる前段階での家族支援から行い、電話・来所での相談がしづらい人や難しい人が、相談につながりやすくなるように、LINE相談を開設して相談対応を行いました。

<利用件数>

年代	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	不明	合計
男	3	6	2	5	4	2	0	2	23
女	1	3	0	2	1	0	0	2	9
合計	4	9	2	7	5	2	0	4	33

<支援状況>

本人と面談	自宅訪問	家族支援	関係者との共有のみ	就労中	中断・終了
12	11	14	1	1	4

3. 生活困難・困窮者への支援

(1) 生活支援の貸付相談件数 延 213 件

○生活資金貸付総件数 (市社協扱い)

◆生活資金(助け合い資金) 17 件 313,000 円

相談者の生活状況の把握に努め、緊急的な貸付で対応が可能かどうか相談を行いました。また、生計維持できない方や、病気等により就労が困難な状態にある方からの相談については、まいさば東御や東御市福祉課援護係等と連携を図り、生活の立て直しに向けた支援を行いました。

○生活福祉資金貸付件数（県社協扱い）

◆総合支援資金	1 件	600,000 円
◆福祉資金	5 件	504,000 円
◆教育支援資金	1 件	468,000 円

(2) 緊急小口資金等の特例貸付実施後の相談支援体制強化事業（県社協受託）

特例貸付償還免除世帯や償還困難世帯を対象に、今後の生活の立て直しに向けた生活相談を、まいさぼ東御と連携しながら行いました。償還をすることが困難な世帯に対して、生活福祉資金特例貸付管理事務センターと連携し、償還免除もしくは猶予申請の為の相談に対応しました。

- ・生活相談延人数 140 人
- ・償還相談延人数 92 人

(3) 生活困窮者への緊急食料支援の実施（共同募金広域配分事業）

令和4年12月1日より、多くの食料支援ニーズに対応するため、長野県フードサポートセンター（長野県社会福祉協議会が長野県から受託）が創設されました。これまでのフードバンク信州（ななせ仲まち園）の食料支援に加えて、生鮮食品を含む食料支援を実施したり、フードバンク活動の普及や啓発等を行う事業として創設されました。

○長野県フードサポートセンター

支援者	支援世帯数	延支援回数
長野県フードサポートセンター	23	63

○食料支援事業（フードサポートとうみの縁）

令和2年度から独自事業として実施しています。障がいや体調不良のため、就労が難しいことから収入が少ない方や、増収が見込めず生活保護に近い方、収入がほとんどなく住宅ローン等のために生活保護が受けられない方なども利用しました。いただいた寄付の中には、第三の居場所ゆめぽけっと・とうみで使ってほしいと寄付をする方も多数ありました。また、令和8年1月の「なんでも相談会」では、食料の配布を行いました。

◆利用者延人数 603 人（昨年：502 人）

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	R7. 1 月	2 月	3 月	合計
人数	57	49	56	52	46	61	45	45	53	50	35	54	603

◆寄付受付者延人数 191 人（昨年：204 人）

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	R8. 1 月	2 月	3 月	合計
人数	9	18	18	14	20	21	16	15	18	11	13	18	191

寄付受付団体数 延2団体（昨年：15団体）

- ◆食料在庫量（寄付） 食料重量…1,010.5 kg 米…958.7 kg
- ◆長野県フードバンク活動団体連絡協議会 1 回
- ◆「日用生活用品等の緊急支援事業」（長野県社協） 57 件

◆県社協「広域フードパントリーむすびや」の利用 2回

(4) 仕事・生活サポーター事業

自立相談支援事業の相談者やその子どもに、オーダーメイドの支援をするために、市民に支援員（サポーター）登録をしてもらい、就労準備支援事業のサポーターとしても活躍しました。サポーター向けの交流会と研修会を各1回実施しました。

○実績数

利用者数	利用回数	サポーター数	支援内容	孤立防止	生活・社会自立意欲喚起	就労自立意欲喚起
5人	49回	4人		5人	4人	4人

(5) 協力事業所登録・就労体験・見学

職場見学・就労体験・プチバイト・認定就労訓練について協力する事業所を募り、パンフレットにしました。

○協力企業数…37か所（令和6年度：36か所）

農業・栽培	医療・福祉	食品・製造	警備	環境整備	その他
15	5	9	2	2	4

○協力内容（協力事業所以外の事業所も含む）

協力事業所は、就労見学・体験・プチバイト・就労支援プロジェクト・認定就労訓練について協力がありました。

()は令和6年度件数

職場見学・体験	プチバイト	就労支援プロジェクト	認定就労訓練事業
5 (7)	7 (2)	6 (8)	0 (0)

(6) 無料職業紹介による就労支援

令和6年8月に長野労働局より無料職業紹介所として新たに認定を受けました。相談者個人にマッチングする求人を、ハローワークを通さずに行うことができ、法令を遵守しながら迅速な職業紹介を行いました。

求人票受付	求職者受付	無料職業紹介による就労者数
1	1	1

(7) 地域生活課題解決に向けた地域づくり・ネットワーク形成・グループ支援

多機関と協働して、ネットワークを組み、支援や仕組みづくりについて検討をして課題解決の取り組みを行いました。年々、片づけ支援や引っ越しの支援が必要になる事例が増加しています。

取組み内容・課題	会議・活動回数
身寄りのない人・単身者の支援(は一べすとの会)	15回
廃棄物などの片づけに関するチーム支援	4回
多頭飼育にかかわる課題解決とチーム支援	3回

(8) 高校カフェ

令和7年度4月から、新たに東御清翔高校で高校カフェが開設され、侍学園から参加依頼があり、協力をしました。地元の高校との連携が深まる機会となりました。

◆参加回数5回

4. 権利擁護事業の推進

(1) 日常生活自立支援事業

高齢者や障がいがあり判断能力が不十分な方々にとっても、東御市で安心して自立した生活が送れるように、福祉サービスの利用に関わる相談などの援助を行いました。関係機関からの問い合わせや相談では、相談内容が複雑化しており、まいさぼ東御や福祉関係者と情報を共有しながら進めているケースも増えています。

専門員：6人 生活支援員：4人

◆相談件数 延1,077件（新規・既契約含む）

専門員訪問調査回数	利用援助回数	ケース検討会議	書類等預かり件数
延252回	延612回	延32回	22人 97件

◆実利用者数 23人

	認知症	知的障がい者	精神障がい者	その他	合計
新規	0	0	0	0	0
解約	0	0	1	0	1
総件数	6	8	7	2	23

*新規契約件数0件、解約件数1件

*現契約者数22人(令和8年3月31日現在)

(2) 金銭管理、財産保全サービス事業(市社協扱い)

実利用者数 2人

*新規契約件数0件、解約件数0件

*現契約者数2人(令和8年3月31日現在)

(3) 成年後見制度の啓発・相談支援

◆上小圏域成年後見支援センター運営委員として参画し、上小圏域成年後見支援センターの活動に協力しました。

◆日常生活自立支援事業や生活困窮者自立支援事業において、成年後見制度の相談や制度につなげました。

成年後見制度の初回相談	成年後見制度への移行相談
2件	1件

5. 持続可能な権利擁護支援モデル事業（終身サポート事業）

2,100,000円

本事業は、厚生労働省のモデル事業として東御市から委託を受け、令和7年11月から開始しました。「身寄りのない人（家族・親族がいない、または家族・親族がいても支援を受けられない人）で、生活に困窮している人」を主たる対象として、従来、家族機能に依存してきた身元保証や死後対

応等の課題に対し、地域における新たな支援の仕組みとして構築を進めました。

令和 7 年度は試行的実施期間として、対象者を生活困窮者に限定し、関係機関への周知にとどめたこと から相談件数は限定的であったが、従来から課題を抱えていた当事者に対し、支援計画の策定および審査会による契約承認に至るなど、実効性のある支援モデルの構築に向けた一定の成果を得ることができました。

一方で、事業実施にあたっては、規程・様式・運用方法等の整備を新たに行う必要があり、制度設計段階における負担が大きいことが明らかとなりました。また、利用対象者の範囲、費用負担のあり方、成年後見制度との関係整理など、制度的検討を要する課題も確認されました。

(1) 相談実績

◆相談件数

①新規相談 (件)	②新規支援計画作成 (件)	③権利擁護支援運営審査会提 (件)	④契約件数 (件)	⑤継続相談 (件)
10 件	2 件	2 件	0 件	2 件

*その他、事業の問い合わせ 3 月:1 件

◆相談者の概要

相談者は 70 代を中心とする高齢単身者が多く、男性の割合が高い傾向にあった。これは、地域における孤立リスクや支援ニーズの偏在を示唆するものであり、今後の施策検討において重要な視点となりました。

年代 (人)		相談経路 (人)		性別 (人)	
60 代以下	0	本人	1	女性	男性
60 代	3	まいさぼ	2	1	9
70 代	5	介護支援専門員	3		
80 代	2	地域包括支援センター	2		
		障がい者相談員	1		
		その他	1		

◆相談内容の傾向

死後事務委任および入退院時支援に関する相談が多く、特に「緊急時の対応」「死後の手続」に対する不安が顕著でした。これらは、従来家族が担ってきた役割の空白を示すものであり、公的・準公的な支援の必要性を裏付ける結果となりました。

相談内容 (延べ件数)	
日常生活サービス (見守り、契約同席、日常的金銭管理等)	3
死後事務委任サービス (葬儀・火葬・埋葬、行政等の届け出、賃貸住宅明け渡し等)	8
入退院時等支援サービス (入院入所前・中のサポート、緊急連絡先等)	8
その他 (居住支援住宅に入居にあたる利用検討等)	3

◆相談の対応結果

相談の一定数が審査会を経て契約に向けた具体的段階に進んでおり、本事業が実際のニーズに対応し得る仕組みであることが確認された。一方で、他制度への接続や対象外判断となる事例も一定数存在し、既存制度との役割分担および連携の整理が今後の課題である。

相談の対応結果 (件数)	
権利擁護支援運営審査会の承認後、契約締結へ	2

権利擁護支援運営審査会に提出する前の状況整理	1
相談を継続し、契約の意思を確認する	1
令和7年度の契約対象者ではないが、今後契約の可能性があり継続相談	1
法律専門職や、多機関・他制度につなぐ	2
事業内容の説明後、本人が希望しない	1
契約対象にならなかった	2

(2) 権利擁護支援運営審査会

本事業の適正性および公平性を担保するため、司法および福祉分野の専門職による審査会を設置し、利用の適否や費用負担のあり方等について審議を行いました。本審査会の設置により、利用者選定の透明性確保、経済状況に応じた柔軟な対応の担保、制度設計上の課題の専門的検証が可能となり、本事業の信頼性および持続可能性の確保に寄与しました。

審査会構成員	弁護士会、司法書士会、行政書士会、社会福祉士会、民間介護・福祉事業所連絡協議会、長野県社会福祉協議会、東御市福祉課	合計 8 人
--------	---	--------

日付	参加 委員数	審議 件数	その他協議・確認事項
第1回 令和8年2月12日	7	2	利用料金の設定方法、委託費の妥当性、事業の持続可能性、支払い困難者への基金活用
第2回 令和8年3月13日	8	2 (同申請者)	規程修正案および契約条文の追加内容、カスタマーハラスメント対策の必要性、基金の目的、モデル事業としての位置づけと今後の展開

(3) その他業務

①周知活動

日付	主催者
9月2日・10月14日	みまき福祉会と東御市社協介護支援専門員合同研修
令和8年1月19日	東御市ケアマネネット部会
令和8年3月17日	多職種連携会議
令和8年3月24日	民間介護・福祉事業所連絡協議会

②実践報告

日付	主催者・内容
令和8年2月2日	長野県社会福祉士会 「家族の支援が受けられない人へのアプローチ-身よりに関する制度政策や地域の実践を当事者とともに考える-」 演題「当事者と歩支援-チーム連携と終身サポート-」

③会議参加

日付	主催者・内容
令和7年9月19日 10月31日・12月19日・令和8年2月13日	厚生労働省「持続可能な権利擁護支援モデル事業 令和7年度モデル事業実施自治体等連絡会」 全4回・オンライン *実施自治体の実践報告、質疑応答など
10月30日	長野県社会福祉協議会「身寄りのない高齢者等への対応」にかかわる情報共有会議 浅間温泉文化センター *国の制度動向、県内の実践報告

6. 結婚相談事業の推進

結婚を希望する未婚の男女に対して、在住地や在勤地を問わず、広域的な結婚支援活動を通して、各種相談の受け付け及びお見合いの場の設定等を行いました。

- (1) 相談状況 相談員 5 人
- ・相談日 毎月第2・第4日曜日 午前9時～正午
 - ・相談場所 中央公民館 学習室

開催日数	相談件数	相談登録者数	お見合い件数	結婚成立件数
23 日	延 255 件	187 人 (男性 147 人、女性 40 人)	21 件	3 件

※結婚成立件数は全て登録者と登録者以外の結婚

- (2) 4 市町村結婚相談員連絡会事業（東御市、長和町、青木村、立科町）
- ・四市町村での結婚相談員連絡会及び情報交換会
年間 12 回 参加相談員（東御市） 延 48 人

Ⅲ 地域福祉活動

1. 地域ささえあい活動の支援・推進

(1) おらほの地域福祉づくり事業（共同募金配分金）

地域の課題に対して、地域役員が主導し、地域住民が主体となって解決する仕組みづくりを応援するため、計 10 支部に助成金を交付すると共に、各種相談に応じました。

＜新規支部＞ 6 支部 180,000 円（1 支部 3 万円）

※申請日順

支部	取り組み状況	取り組みメニュー
新張区	1 年目	いきいきサロンの活性化
栗林区	1 年目	地域の絆を深める活動
御牧原北部区	1 年目	いきいきサロンの活性化
常田区	1 年目	いきいきサロンの活性化
大川区	1 年目	地域の絆を深める活動
東上田区	1 年目	いきいきサロンの活性化

＜継続支部 2 年目＞ 2 支部 60,000 円（1 支部 3 万円）

※申請日順

支部	取り組み状況	取り組みメニュー
片羽区	2 年目	地域の絆を深める活動
海善寺北区	2 年目	地域の絆を深める活動

＜継続支部 3 年目＞ 2 支部 60,000 円（1 支部 3 万円）

※申請日順

支部	取り組み状況	取り組みメニュー
金井区	3 年目	地域の絆を深める活動
大日向区	3 年目	地域の見守り活動

(2) 支部福祉活動の支援

① 支部福祉活動助成金の交付 67 支部 1,750,000 円

② 地区別地域福祉懇談会

支部長・福祉運営委員長等、支部福祉活動に関係する地域役員等を対象として、地区別に福祉懇談会を開催し、各種情報提供のほか、支部ごとの懇談を図りました。



内容 ・社会福祉協議会の事業について
・地域福祉活動の推進について

＜地域福祉懇談会＞

地区	日付	場所	参加人数
北御牧	2 月 16 日	北御牧公民館	40 人
滋野	2 月 18 日	滋野コミュニティセンター	41 人

和	2月20日	和コミュニティセンター	40人
祢津	2月25日	総合福祉センター	32人
田中	2月27日	中央公民館	40人
合計			193人

③ いきいきサロン等助成事業

・実施支部 39支部 ・総参加者 6,128人

事業	茶会	会食会	世代間交流	福祉新聞の発行	課題調査
回数	207回	124回	11回	3回	0回
参加者数	2,705人	3,028人	395人	230部	
事業	食事サービス	ふれあい訪問	講演・講習会	福祉施設訪問	
回数	3回	28回	5回	1回	
参加者数	66人	1,591人			

④ 地域活動援助講座

サロンを運営する福祉運営委員やボランティアを対象に、サロンで活用できる料理の講習会を開催しました。また3月は「サロン・地域福祉活動の担い手交流会」として開催し、役員等による情報交換も行いました。

○地域活動援助講座

サロンを運営する福祉運営委員やボランティアを対象に、サロンで活用できる料理の講習会を開催しました。



<いきいきサロンのための料理講習会>

○いきいきサロンのための料理講習会 1回

- ・対象者 各区福祉運営委員・ボランティア
- ・講師 東御市食生活改善推進協議会会員

期 日	テーマ	参加者
7月8日(火)	・スイカ模様のやしょうま ・白菜とトマトの酸辣スープ ・夏野菜おかず	11人

⑤ 地域の絆づくり支援事業

- ・レクリエーション用品の貸し出し
ハンドベル、お手玉、輪投げ等ゲーム用具等 319件

⑥ 地域への出前講座 45回

支部福祉運営委員会等からの依頼により、職員による出前講座を実施しました。また、ボッチャ体験については、一部の依頼についてボッチャサポーターの会へ依頼し、サポーターによる出前講座を行いました。

講 座	回数	講 座	回数
介護予防体操（レクリエーション）	5 回	エンディングノート	2 回
認知症講座	1 回	おらほのサロン	1 回
介護保険の上手な使い方	5 回	まいさぼ東御について	1 回
ボッチャ体験	30 回		

(3) 福祉のまちづくり講座「とうみ男の遊び塾」

男性のコミュニティーづくりを支援し、地域における役割や生きがいづくりを支援するため、様々なテーマのもとに集えるサロンを開催しました。

	開催日	参加人数	内容
第1回	5月19日	5人	ゆめぼけっと・とうみ敷地内の畑を利用児童と共に耕し、苗植え等を行った。
第2回	7月29日	4人	ゆめぼけっと・とうみ夏祭り企画手伝い・参加
第3回	10月25日	4人	福祉の森ふれあいフェスティバルへのボランティア参加
第4回	1月31日	2人	東御市社会福祉大会・何でも相談会&カフェへでのカフェコーナー実施

(4) 介護講座「あった介護教室」

日 時 令和8年3月14日（土）

場 所 総合福祉センター3階 講堂

内 容 元気に食べて、元気におしゃべりオーラルフレイルを予防しよう
東御市民病院 リハビリテーション科 言語聴覚士 餅田 亜希子氏

参加者 37人

(5) 福祉自動車貸し出しサービス事業

・登録者 利用会員数 74人

・利用延回数 98回（内、福祉移送ボランティア11回）

(6) 福祉用具貸与事業 ※車いすの利用件数の内、48件は短期間の貸出件数

貸出物品	利用件数
介護用ベッド	69
車椅子	※138
ポータブルトイレ	60
その他（歩行器等）	16
合 計	283

(7) 生活支援コーディネーター事業

東御市からの委託を受け、生活支援コーディネーターを配置し、地域福祉活動の推進及び福祉課題や潜在的なニーズの発掘に取り組みました。

①東御市生活支援協議体会議の開催及び運営

日 時：令和8年2月9日 午前11時00分～午後0時15分

参加者：地域ボランティア、移送事業者、行政・社協関係など10人

内 容：「移送地域の移送サービス・ボランティア活動について」

②通いの場・通所型サービスの支援（出席等：計10回）

地域包括支援センターが開く「通いの場・通所型サービスについての関係者研修会」へ定期参加。関係者と市内での福祉事業の実施状況等について協議。（10回）

③関連する会議・研修会への出席・協力（計6回）

- ・令和7年6月2日 午後1時30分～午後3時 第1回介護予防住民指導者養成講座
- ・令和7年6月20日 午後3時30分～午後5時 身体教育医学研究所評価分析報告会
- ・令和7年7月14日 午後1時30分～午後3時 第2回介護予防住民指導者養成講座
- ・令和7年7月17日 午後7時00分～午後8時 多職種連携会議
- ・令和7年8月25日 午後1時30分～午後3時 第3回介護予防住民指導者養成講座
- ・令和7年11月12日 午後7時00分～午後8時00分 地域ケア推進会議

④行政区等、既存の組織による地域（福祉）活動への支援（相談対応等：計461回）

※主にいきいきサロン等の住民の交流の場づくり、災害時の支えあい体制づくり、安否確認体制づくりに関する相談等の受付状況。

- ・区が主体で実施する福祉活動に関する相談・支援（来所・電話417回）
- ・区が主体で実施する福祉活動に関する会議等への出席（30回）
- ・地区単位の地域づくり組織が主催する会議・打ち合わせ・イベント等への出席（14回）
- ・しげの里づくりの会の生活支えあい部会定例会への参加及び通学合宿への協力ほか

⑤個別訪問及び個別ケースへの支援（対応等：計169回）

※社協事業を通じた対応等を含めた個別訪問・個別ケースへの対応状況

- ・社協事業（寝具洗濯乾燥サービス事業等）の訪問機会における個別訪問（142回）

※訪問の際には「社協等の相談体制に関するご案内資料」を配布。生活支援コーディネーターについても紹介し、周知啓発も実施しました。

- ・高齢者日常生活サポート事業における個別訪問（16回）
- ・その他、訪問ケースへの対応（11回）

※地域の課題として把握された個別ケースに対して、関係者と協力し対応したケース等

⑥その他、①～④に属さないものの、コーディネーターとして対応したケース（13回）

交流の場・居場所づくり等の一環として「男性の料理サロン」、「とうみ男の遊び塾」、「はーべすとの会（身寄りのない単身者の団体）」などの運営を企画・支援。

⑦近隣市町村の生活支援コーディネーターとの交流・研修会への出席（1回）

上田市、東御市、長和町、青木村、坂城町、立科町の生活支援コーディネーター（一層及び二層）が参加する交流・研修会への参加・企画

- ・令和8年2月5日 午後1時30分～午後3時30分

青木村役場 保健センター2階研修室

「あおきカフェの取り組み紹介・出前講座等の情報交換について」

(8) 高齢者日常生活サポート事業

①サポーター登録者数 67 名

内訳：訪問型 49 人、居場所型 18 人

②利用登録者数 訪問型 30 人

③活動・利用状況

・サポーターの活動状況について

・延べ活動回数 138 回（実活動サポーター数 18 人）

〔内、草取り 19 回、ゴミ出し 8 回、見守り 37 回、その他支援 74 回〕

※主な活動内容

〔内、1 時間活動 87 回、30 分活動 51 回〕

・利用登録者の利用状況について

延べ利用回数 138 回（実利用人数 11 人）

2. 子どもの居場所づくり事業

(1) 東御市子ども第三の居場所づくり事業（市受託事業）

① 事業の概要

小学校低学年の子どもを主な対象とし、親の就労や家庭環境に様々な事情や背景を抱える子どもたちを各学校まで迎えに行き、居場所での人との交流や各種活動、学習や掃除等の活動を通じて、子どもたちが生きていく力を身に付けていくための場として市内小中学校、支援学校から子どもたちが利用しました。また、必要な家庭に対しては食事の提供、自宅への送迎も行い、子どもサポートセンター他関係機関との協力体制のもと、保護者からの相談への対応を含め、子どもの健全な育成に努めました。

その他にも、子どもの学習・生活支援事業と協力し、学習の場の提供等においても居場所を活用しています。

② 令和 7 年度利用状況

・延べ利用人数 2,105 人

・登録児童数 39 名（小学生：31 名・中学生：8 名）＊3 月末時点

③ 学校ごとの利用状況（登録児童数）

・田中小	12 名	・東部中	3 名
・祢津小	6 名	・北御牧中	3 名
・滋野小	4 名		
・和小	5 名		
・北御牧小	3 名		



④ 主な活動

・ミニデイサービスとの交流会（ゲーム）

・ゆめぽけっとクラブ活動（市体育館にて運動）

・「ゆめぽけ農園」での野菜作り・収穫体験

・季節のイベント 夏祭り、ハロウィン・クリスマスの飾り作り 他

(2) 東御市支援対象児童等見守り強化事業（市受託事業）

対象は、地域社会から孤立傾向にある子育て家庭や妊娠・子育てに不安感を持つ家庭等の子どもや妊婦です。東御市が開催する子育て支援サポーター養成講座を修了し、東御市社会福祉協議会に登録した見守り支援員が、家庭や子育て支援センター、第三の居場所「ゆめぼけっと・とうみ」など地域の居場所等へ定期的に訪問をし、子どもと家庭の状況把握や困りごとの相談に応じて、公的支援への橋渡しを行い、早期に適切な支援につなげました。

・令和7年度見守り支援員登録者数

登録者 49名 ※支援員としての活動者 20人

・見守り支援員の資質向上に向けた研修（スキルアップ研修）及び見守り支援員の交流会

1. 令和7年10月15日（水） 24人参加

「特性のある子どもとの接し方」

講師 長野市社会事業協会

児童発達支援センター にじいろキッズらいふ

児童発達支援管理責任者 主任 塩澤恵美氏

◎スキルアップ研修会終了後見守り支援員交流会開催

2. 令和8年3月16日（月） 28人参加

「児童発達支援事業所「マイソミ」の取り組み

講師 相談支援相談員 伊藤聡氏

相談支援専門員・保育士 竹内美衣氏

◎スキルアップ研修会終了後見守り支援員交流会開催

・見守り支援員活動状況

見守り支援員は、イベント・研修会での託児、子ども第三の居場所「ゆめぼけっと・とうみ」で、利用時の見守りや個々の特性に合わせて支援、家庭訪問等で、子どもや保護者の様子や生活状況の確認、相談や傾聴等を行う中で必要に応じ様々な関係機関と連携をして、安心して生活が送れるよう支援を進めました。

支援方法	支援活動内容
訪問による活動	・学校の生活になじめない世帯への訪問 ・外出から遠ざかっている子どもの支援 ・経済的支援を受けている対象世帯への見守り、相談等による訪問 ・親子関係がうまく築けていないケースの対応や子どもの体調確認や家庭での過ごし方等を家庭だけではなく学校・保育園への訪問を通じ、生活全般の様子を聞き取る中で、子ども及び家庭での生活の様子を確認 ◎経済的に支援が必要な世帯に訪問時 2,000 円程度の食料等の生活支援物品を支給
滞在による確認	・各種研修会や、講座、イベントに伴う託児等の対応 ・相談業務開催に伴う託児 ・当事者組織の研修会に伴う託児等 ・担当者会議等関係者会議への出席
第三の居場所 ゆめぼけっと・とうみ を活用した支援	*ゆめぼけっと・とうみを利用している児童の見守りや、個々の特性に応じた生活支援、学習支援を行いながら、対象児童の様子や変化を察知し、利用児童に適した支援や教育機関等関係機関と連携を持って進めました。

※見守り支援員活動は、1 ケースにつき 2 時間を限度として報酬が支払われます。

訪問型 1 ケース 2,000 円 滞在型 1 ケース 1,500 円

見守り支援員実績（令和 7 年 4 月～令和 8 年 3 月）

支援方法	回数	報酬	物品購入費
滞 在	67 回	114,000 円	
訪 問	292 回	582,000 円	442,199 円
ゆめぼけっと	141 回	265,500 円	
合 計	500 回	961,500 円	442,199 円

（3） 地域生活課題解決に向けた地域づくり・ネットワークづくり・グループ支援

子どもだれでも居場所づくり事業 通称：「くる me」（市委託事業） 250,000 円

市内社会福祉法人と公益財団法人の協働により、各種相談機関など関係機関が声掛けを行い、世代を超えて、親子や青年から高齢者、学生、市民ボランティアが協働し、誰もが役割を持ち、自己肯定感や人とのつながりを創出し、安心できる居場所づくりを行いました。

令和 7 年度もちいさがた福祉会、みまき福祉会と協働開催しました。各法人から障がいの専門職の職員が参加するようになり、保護者の日頃の悩み、障がいのある子どもの子育ての悩みなどを聞く相談コーナーを設けることができた。また、各法人の施設を利用することで、活動の場を広げることができました。

○活動実績

実施日	全参加人数	スタッフ	大人	子ども	世帯数	場所	内容
4 月 26 日	46	20	11	15	11	芸術むら公園 テニスコート	現地でカレー作り
5 月 24 日	30	17	5	8	6	芸術むら公園 芝生広場	外遊び、散歩、ブーメランづくり
6 月 28 日	37	18	7	12	6	芸術むら公園 明神池	カヤック、自然遊び
7 月 26 日	31	18	6	7	5	ちいさがた福祉会 さんらいずホール	ぺたぺた版画
8 月 10 日	45	19	11	15	9	北御牧公民館	室内遊び、校庭で遊ぶ
9 月 23 日	39	11	13	15	10	芸術むら公園 明神池	カヤック
10 月中止							
11 月 8 日	29	12	8	16	8	北御牧公民館	室内遊び、校庭で遊ぶ
12 月 13 日	31	17	5	9	7	芸術むら公園 テニスコート	カレーとピザ・ナン作り

1月17日	12	7	2	3	3	北御牧公民館	室内遊び、校庭で遊ぶ
2月14日	17	8	3	6	4	滋野コミュニティセンター	室内遊び、校庭で遊ぶ
3月15日	22	16	2	4	4	芸術むら公園 テニスコート	棒パン・シチュー作り
合計	339	163	73	110	73		

※10月は、社協の他事業開催が重なったことと各共催者との予定が合わせられなかったため、開催しませんでした。

○相談コーナー「大人のおしゃべりなんでも相談会」相談者数

延人数…10人

グループトーク…1回

3. 共同募金配分事業

1. 高齢者への活動

(1) ひとり暮らし高齢者の福祉サービス

○おせち料理

市内の飲食店に調理委託したおせち料理を、民生児童委員に把握していただいた対象世帯へ、民生児童委員の手渡しにより配布することで、年末の安否確認及びつながりを感じられる地域づくり活動の一助として実施しました。

- ・期 日 令和7年12月30日(火)
- ・訪 問 担当民生児童委員 延 50人
- ・対象者

一人暮らし 高齢者	高齢者 世帯	障がい者 独居世帯	障がい者 世帯	父子家庭	合 計
112人	7世帯 (14食)	9世帯	3世帯 (6食)	1世帯 (3食)	132世帯 (144食)

(2) 敬老祝賀事業

○金婚祝賀

東御市と東御市シニアクラブ連合会で主催（共催：東御市社会福祉協議会）する金婚祝賀式典において、祝品（慶祝状の額）を贈呈しました。

- ・金婚祝賀式典 令和7年9月12日（金）
- ・該当者 22組
- ・会 場 総合福祉センター3階

○敬老祝賀

市内の米寿、白寿を迎える高齢者を対象に、敬老祝品（タオル）を贈呈しました。贈呈については、訪問を希望する対象者には市長と社協会長が訪問させていただき、その他の方は民生児童委員に協力を依頼し贈呈しました。

- ・対象者 合計 237人（米寿祝 207人・白寿祝 30人）
- ・祝賀訪問 56人 令和7年9月25日(木)～26日(金)

2. 障がい者への活動

(1) 第22回障がい者福祉のつどい

12月3日～12月9日の「障がい者週間」の啓発期間に併せ、市内の関係機関・団体で実行委員会を組織し、障がい児者の抱える諸課題について啓発を行いました。

- ・日 時 令和7年11月29日（土） 午後1時30分～午後3時35分
- ・会 場 中央公民館3階 講堂
- ・参加者 福祉団体関係者、来賓等 112人
- ・内 容

- ◆ アトラクション

- ・「ダンスグループからふる」

- ◆ 講演

- ・「未知への挑戦」

講師：東京パラリンピック ボッチャ個人金メダル
杉村英孝選手、内藤由美子コーチ



<障がい者福祉のつどい>

(2) 障がい者社会参加支援事業助成

地域における障がい児者への理解を深め、運動・スポーツを通して障がい児者の社会参加を推進する活動に取り組む『みんなの健康×スポーツ実行委員会（事務局：公益財団法人身体教育医学研究所）』に助成金を交付し、ボッチャのクラブ活動を中心に取り組みました。

① ユニバーサルスポーツの場づくり「わくわくスポーツ」への支援

開催期間 令和7年5月～令和7年9月（5回、内1回中止）
場 所 東御市中央公園第一体育館及び第二体育館
参加者 262人（スタッフ含む）
内 容 『ボッチャ』を中心とした活動

② とうみボッチャリーグ戦

開催期間 令和7年11月～令和8年1月（3回）
場 所 東御中央公園第一体育館
参加者 16チーム 延160人
内 容 シーズン型のボッチャリーグの開催

③ 東御市総合体育大会ボッチャ競技開催支援

開催日 令和7年10月18日（土）
場 所 東御市中央公園第一体育館
参加者 32チーム 延168名

④ ボッチャ交流大会2026〈第10回記念大会〉

開催日 令和7年11月30日（日）
場 所 東御市中央公園第一体育館
参加者 第1部 178人、第2部 202人
内 容 第1部 ボッチャスキルアップクリニック、第2部 競技大会

⑤ パラ小学祭 in とうみ

開催期間 令和8年1月13日（火）
場 所 東御中央公園第一体育館及び第二体育館
参加者 200人
内 容 ボッチャ、車いすポートボール、車いすりレー、クラス対抗戦

3. ボランティア活動

(1) ボランティア連絡協議会・ボランティア団体活動補助金(20 団体)の交付

市内のボランティア団体 32 団体・個人ボランティア 26 名が登録している東御市ボランティア連絡協議会の運営経費補助金 60,000 円と、同協議会に登録し、社会福祉協議会の推進するボランティアの啓発活動を協働して取り組む 20 団体に 15,000 円の補助金を交付しました。

(2) 男性の料理サロン「楽ちん・しあわせごはん」4 回及びイベント参加

男性に対して社会参加の機会・きっかけを提供すること、また家庭内での役割を担うきっかけ作りとしていただくことを目的に、料理サロンを開催しました。

開催日	テーマ	参加者
8 月 23 日	夏野菜のドライカレー、揚げナスの梅びたし、中華サラダ	13 人
10 月 11 日	鮭と青じその混ぜ寿司、サバ缶豆腐ナゲット、すまし汁、焼きリンゴケーキ	9 人
12 月 14 日	手打ちそば、ほうれん草とりんごの大豆白和え、いも餅	8 人
2 月 21 日	黒豆おこわ、春巻き、ポテトサラダ、なめこのみぞれ味噌汁	10 人

4. 児童・青少年への活動

(1) 福祉協力校の指定、活動助成（8 校）

市内の小中学校・高校 8 校を対象に、社会福祉への理解と関心を高めるとともに、社会への奉仕や連帯の精神を養う等、福祉教育の推進を図ることを目的として助成金を交付しました。 ※実績については福祉教育分野に別掲。

5. 社会福祉の啓発

(1) 社会福祉大会

社会福祉の発展に貢献した個人や団体を表彰し、地域福祉活動の普及・推進を図るため、東御市社会福祉協議会発足 20 周年記念社会福祉大会を開催しました。

開催日 令和 8 年 1 月 31 日（土）

場 所 東御市文化会館（サンテラスホール）

参加者 約 250 名（相談会参加者、スタッフ含む）

表 彰 地域福祉功労 個人 7 名、団体 1 組

ボランティア功労 団体 1 4 組

高額寄付団体 団体 1 組

内 容 記念講演 NP0 法人 ケ・セラ 理事長 西村昭太氏

「障がい者の暮らしやすいまちづくり」

演 奏 楽団 ケ・セラ（就労継続支援 B 型 ケ・セラ塾）

(2) 社協報「ほほえみ」

（ボランティア情報「かわら版」含）の発行

・発行回数 年 6 回 奇数月の 1 日発行

- ・発行部数 10,800 部
- ・編集委員 1 人

(3) ホームページ、フェイスブックでの情報発信

[ホームページアドレス URL <http://www.tomisyakyo.or.jp>]

6. ふれあい交流サロン

(1) ふれあい交流サロン “おいでよサンサン”

令和7年4月から、介護経験者、現在介護にあたっている方を対象にした「太陽の会」と、お茶会等や趣味活動等を通して、地域の高齢者・子育て世代や高齢世代等地域や世代を超えた交流の場の「おいでよサンサン」を装いも新たにふれあい交流サロン「おいでよサンサン」としてスタートしました。

基本 月1回（毎月第4火曜日）開催。

6月は、湯ノ丸のつつじの花見、8月には国分寺のハスの花見に出かけました。

また、8月には、福祉現場実習として大学の実習生3名を受け入れ、現役大学生との交流を楽しみました。

- ・開催回数 合計14回
- ・参加者数 延173人（男性 44人・女性 126人）＊大学生 3人

7. おらほの地域福祉づくり事業の推進（再掲）

事業内容については、21頁参照

IV 福祉教育、ボランティア活動の推進

1. 福祉教育の推進

福祉協力校として指定した市内の小中学校・高校で取り組んだ福祉教育実践活動は下記のとおりです。各校ともに、福祉施設等との交流や福祉体験学習などに取り組みました。



<活動内容>

<福祉体験学習>

学校名	内 容
田中小	人権講演会、赤い羽根共同募金、学年・学級によるSDGsの学習、手話体験、パラ小学祭 in とうみ
滋野小	視覚障がいの当事者との交流、車いす体験、アイマスク体験、ユニセフ募金・赤い羽根募金、書き損じ等不要官製はがき収集、レインボー祭り
祢津小	赤い羽根募金、米づくりでの交流、ネットタイムでの地域の方々との交流、清掃活動、車いすバスケットボールの体験、校外学習での交流、ボッチャ体験、ハーモニック東部との交流
和 小	保育園との交流、アルミ缶収集・回収、手話体験、パラ小学祭、ボッチャ体験、井出やす子さんとの交流、環境美化
北御牧小	ケアポートみまきとの交流、アイマスク体験・対話鑑賞、車いすツインバスケット体験、北御牧中学校特別支援学級との交流学习、手話・点字体験、赤い羽根共同募金
東部中	アルミ缶・スチール缶回収、制服リサイクル、子どもフェスティバル、ケアポートまつり、道の駅清掃ボランティアへの参加、ふれあいフェスティバル参加、赤い羽根共同募金、ベルマーク収集、書き損じはがき・使用済み切手寄付
北御牧中	1年福祉体験（認知症講座、高齢者疑似体験、障がい者について体験）、赤い羽根共同募金、地域活動
東御清翔高	図書委員会読み聞かせボランティア「えほんのくに」、河川生物研究、校外清掃活動、子どもげんき塾参加、子どもフェスティバル、雷電祭り運営参加、田中地区地域づくりの会運営参加

<福祉体験学習>

学校名	実施回数	講師	ボランティア	延人数	内 容
滋野小	2回	0名	9名	86名	アイマスク体験、車いす体験
祢津小	1回	0名	5名	34名	ボッチャ体験
和小	1回	3名	0名	23名	手話体験
北御牧小	4回	9名	2名	154名	対話鑑賞体験、点字体験、手話体験
東部中	3回	0名	26名	227名	ボッチャ体験

北御牧中	2 回	0 名	14 名	76 名	高齢者疑似体験、ボッチャ体験
合計	13 回	12 名	56 名	600 名	

2. ボランティア活動の推進

(1) ボランティアに関する登録・相談・情報提供・調整の状況

- ・ボランティア団体登録(者)数 61 団体(1,815 人)
- ・くるみの里ボランティアバンク(個人ボランティア)登録者数 89 人
- ・相談・調整者数 3,472 人
(来所 1,754 人・電話 716 人・メール 357 人・訪問 107 人・その他 538 人)
- ・相談件数 ボランティア依頼・受付・相談等 延 7,270 件
- ・ボランティア相談・依頼件数 音訳・点訳・施設ボラ、出前講座等 延 1,836 件

(2) ボランティア活動保険の補助

- ・加入者数 基本プラン 27 人
天災プラン 359 人
- ※保険料補助 基本プラン 4 人(社協補助 50 円) 200 円
天災プラン 281 人(社協補助 200 円) 56,200 円
天災プラン 28 人(社協負担 500 円) 14,000 円
- ※音訳・点訳ボランティア分

(3) ボランティア連絡協議会の活動支援

ボランティア連絡協議会と協働し、ボランティア団体の交流を図り、ボランティアの普及啓発に取り組みました。

① 楽しく交流する会 (障がい者とボランティアの交流会)

- ・期 日 令和 7 年 6 月 24 日 (火)
- ・場 所 別所温泉「あいそめの湯」
- ・参加者 34 名 (職員 2 名含む)
- ・内 容 参加者同士の交流会、ボッチャなどのレクリエーション

② ボランティアセンター研修会

- ・期 日 令和 8 年 3 月 6 日 (金)
- ・場 所 小海町社会福祉協議会
- ・内 容 小海町ボランティア連絡協議会との交流会
- ・参加者 27 名

(4) 上小ブロックボランティアフォーラム

- ・期 日 令和 7 年 11 月 29 日 (土)
- ・場 所 上田市丸子文化会館
- ・参加者 102 名 (東御市から 1 人参加)
- ・当番社協 上田市社会福祉協議会
- ・内 容 テーマ「世代を越えて広げようボランティアの輪」

～ボランティアはいつでも誰でもできる～

・実践発表

第一部「ボランティアと合理的配慮」について

講師 株式会社ジェイハート 代表取締役社長 池田純 氏

第二部「事例発表」

- ・お花し支援プロジェクト(長野大学)
- ・長野県上田千曲高等学校 生活福祉課 3 年 高齢者分野グループ
- ・丸子珈琲倶楽部(丸子地区センター団体ボランティア)

第三部「パネルディスカッション」

3. ボランティアの養成、研修

(1) 夏のボランティア体験教室(サマーチャレンジボランティア)

- ・期 日 令和7年8月6日(水)
- ・場 所 東御市中央公民館3階講堂
- ・参加者 18人
- ・内 容 「楽しく学ぼう!災害ボランティアと防災体験」をテーマに、ゲームや体験活動を通して災害ボランティアや防災のことについて学ぶ。

(2) 手話ボランティアスキルアップ講習会 2回

- ・期 日 令和7年11月9日(日) 午前・午後各1回…初心者コース
- ・場 所 総合福祉センター1階ボランティアルーム1・2
- ・内 容 初心者コース2回
- ・参加者 延 10人

※充実コースは参加者が集まらなかったため中止になりました。

(3) 音訳ボランティア養成セミナー

※参加者が集まらなかったため中止になりました。

(4) 音訳スキルアップ講習会 4回

- ・期 日 令和7年11月10日(月)・18日(火)
令和7年12月3日(水)・8日(月)
- ・場 所 東御市総合福祉センター1階ボランティアルーム2
- ・参加者 延 24人
- ・内 容 朗読技術向上
- ・講 師 元SBCアナウンサー 池田知可子 氏

(5) 災害ボランティア養成講座

- ・期 日 令和8年3月7日(土)
- ・場 所 総合福祉センター 講堂
- ・参加者 60人
- ・内 容

講演「地域の防災力を高めよう」

講師：長野県危機管理部長 渡邊卓志 氏



<災害ボランティア養成講座>

ワークショップ「今日からはじめる“災害に強い地域づくり”」
進行：東御市社会福祉協議会

(6) ボッチャサポーター養成講座

- ・期 日 令和7年9月22日(月)、9月30日(火)
- ・場 所 東御市総合福祉センター3階講堂、東御市中央公園第二体育館
- ・参加者 延 18人
- ・内 容 ボッチャの基本と市内ボッチャ活動への支援

4. 第19回福祉の森ふれあいフェスティバル

450,000円

- ・期 日 令和7年10月25日(土)
- ・会 場 東御市総合福祉センター
- ・参加者 参加総数1,200人(協力団体 50団体 ボランティア 198人)
- ・内 容
 - ① 福祉体験コーナーの設置(手話、点訳、車イス体験等)
 - ② 障がい者施設の作品を展示・販売、設置
 - ③ ボランティア団体の活動発表(展示・体験・舞台)
 - ④ ふれあいミニコンサート・ふれあいコンサート
 - ⑤ 福祉協力校(市内小中学校)で取り組む福祉体験学習の紹介
 - ⑥ 被災地支援バザー



5. ボランティアセンター運営委員会の開催

- ・期 日 令和7年7月28日(月)
- ・場 所 東御市総合福祉センター1階 ボランティアルーム2
- ・参加者 8人
- ・内 容 ボランティアセンターの現況と今後の課題について

V 在宅福祉サービス・支援事業

1. 高齢者支援

(1) 介護予防事業の運営（市受託）

高齢者の閉じこもり・認知症・うつ予防等、要介護状態の予防を目的に、ミニデイサービス及び筋トレ事業、認知症特化通所型サービスを市から受託して取り組みました。

介護予防事業	利用実人員	延利用者	実施数	一日平均
ミニデイサービス（水）～（金）	36 人	1,261 人	147 回	8.6 人
筋トレ教室（月）	18 人	539 人	42 回	12.8 人
認知症特化通所型サービス C（火）	20 人	260 人	49 回	5.3 人

(2) 寝具洗濯乾燥サービス事業（市受託）

概ね 70 歳以上の高齢者の単身世帯と高齢者世帯等で、寝具類の衛生管理が困難な世帯を対象に、寝具類の洗濯乾燥サービスを実施しました。

- ・実施回数 2 回（6 月・11 月）
- ・利用実人数 61 人
- ・利用者数 延 87 人
- ・利用枚数 160 枚
- ・対象者 高齢・障がいなどの理由により寝具の衛生管理が困難な方

(3) 在宅介護者リフレッシュ事業（市受託）

在宅で要介護高齢者を介護している家族を対象に、日頃の介護から一時離れ、心身のリフレッシュ（元気回復）を目的に、併せて介護者相互の交流機会を提供しました。

- ・実施回数 3 回
- ・内 容 健康相談、介護相談、介護者交流、リフレッシュ等

実 施 日	場 所	参加者
令和 7 年 7 月 24 日（木）	佐久平方面「みはらしの湯」 ・ぴんころ地蔵 道の駅での買い物 ・みはらしの湯（入浴・昼食・入浴）	15 人
令和 7 年 11 月 18 日（火）	真田街道と嬬恋温泉 ・真田神社（参拝） ・休暇村嬬恋鹿沢（入浴・昼食・交流）	16 人
令和 8 年 3 月 12 日（水）	南佐久郡方面 ・道の駅散策（ヘルシーテラス佐久平・八千穂高原） ・小海町「八峰の湯」（入浴・昼食・交流）	19 人

(4) 寝たきり高齢者希望の旅事業（市補助）

日ごろの外出機会が十分ではない高齢者及びその家族に対する外出支援と参加者同士の交流を目的として、車いす等でも安心して参加できる旅行を実施しました。

- ・期 日 令和 7 年 7 月 1 日（火）
- ・行 先 野辺山・山梨県清里方面野辺山宇宙電波観測所、清泉寮

八ヶ岳チーズケーキ工房

・参加者

高齢者 8 名＋家族介護者 4 名＋
介助ボランティア 9 名＋職員 2 名
計 23 人



＜寝たきり高齢者希望の旅＞

2. 障がい者支援

(1) 視覚障がい者への音訳、点訳サービス支援

462,000 円

文字による情報入手が困難な視覚障がい者を対象に、市の広報誌や社協報等の音訳・点訳をボランティアの協力を得て実施しました。

利用者 8 人

- ・音訳・・・市報、市報お知らせ版、社協報、他
- ・点訳・・・生涯学習カレンダー、選挙公報、他

VI 介護保険事業

1. 居宅介護支援事業

令和7年4月より、介護予防支援事業の事業指定を受け、各種サービスを利用しながら自宅でその人らしい生活が送れるよう、本人や家族等に寄り添ったケアプラン（居宅サービス計画）の作成に努めました。

また、広域連合からの介護認定調査の受託や、地域包括支援センターからの対応困難ケースの受け入れにも積極的に取り組み、各種研修についてはオンラインなども利用しながら自己研鑽に努めました。

○ケアマネージャー人数

4人

○利用総数

1,950件

<活動状況>

業 務	介護	介護予防 介護予防ケアマネジメント	計
ケアプラン作成総件数（給付管理件数）	1,760件	190件	1,950件
モニタリング訪問件数	2,064件	68件	2,132件
要介護認定調査（広域連合から）	25件	0件	25件
担当者会議開催件数	179件	17件	196件
アセスメント実施件数	179件	17件	196件
事例検討実施件数	7件	0件	7件
対応困難ケース受け入れ件数	4件	0件	4件

<月別居宅サービス計画（ケアプラン）延作成件数>

		令和6年度実績	令和7年度実績	増減
延作成件数	介護	1,992件	1,760件	-232件
	介護予防	134件	190件	56件
月平均	介護	166件	146.7件	-19.3件
	介護予防	9.7件	15.8件	6.1件

○要介護

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
令和7年度	142	146	143	147	145	149	153	150	146	143	152	144	1,760
令和6年度	168	165	169	168	173	180	173	175	172	158	149	142	1,992

○要支援 介護予防支援

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
令和7年度	14	15	17	16	16	17	17	17	16	15	15	15	190
令和6年度	7	10	10	12	12	11	12	12	11	13	12	12	134

<介護度別ケアプラン作成件数>

○要介護

介護度	介護 1	介護 2	介護 3	介護 4	介護 5	計
件数	701	530	258	174	97	1,760
月平均	58.4	44.2	21.5	14.5	8.1	146.7

○要支援

介護度	支援 1	支援 2	計
件数	63	127	190
月平均	5.3	10.5	15.8

<研修実績>

月	研 修 内 容 (外部)
5 月	・ケアマネネット 各種申請手続きについて・日常生活サポートについて
6 月	・合同研修 (みまき福祉会) 税についての話 ・ケアマネネット 事業所との意見交換
7 月	・オンライン研修 統合失調症・発達障害・パーソナリティ障害という診断のある利用者の支援・・診断名や症状に惑わされない対応 ・ケアマネネット 各事業所業務継続計画をもとに災害を想定し、市の災害対策本部設置までの流れと動きを共有 ・認知症研修 本人ミーティング ・認知症研修 認知症の人を理解する ・多職種連携会議 在宅医療・在宅サービスについて
8 月	・ケアマネネット 事例検討
9 月	・ケアマネネット 他職種から考える意思決定支援のタイミング ・認知症研修 認知症の基礎を学ぶ
10 月	・ケアマネネット プラン点検前研修 (ケアプラン作成の視点について) ・ケアマネネット 平時より備えて業務継続計画を使えるものに ・合同研修 (みまき福祉会) 身寄り問題について・生活困窮者の支援の実際について ・上小地域医療・介護連携推進研究会 ・浅間南麓医療・介護連携会議 ・信州上田医療センター緩和ケア地域連携カンファレンス ・人権研修 持続可能な権利擁護モデル事業 ・消防訓練
11 月	・上小ブロック社協職員研修会 もしもの時の備える力 ・実務研修者受け入れ協力事業所指導者研修 ・多職種連携会議 在宅で過ごすための I C T と地域力の活用 ・主任介護支援専門員更新研修

12 月	・合同研修（みまき福祉会） 事例検討 ・ケアマネネット ケアプラン点検を終えて ・オンライン研修 地域共生社会と生活困窮者支援 ・主任介護支援専門員更新研修
1 月	・ケアマネネット 空き家対策・身寄りのない方のガイドライン ・オンライン研修 認定調査員現任研修（長野県） ・在宅看取り語りの場
2 月	・ケアマネネット 認知症初期支援チームの役割 ・身寄りのない人の入院及び医療に係る意思決定が困難な人への支援 ・個別支援地域ケア支援 ・認定調査員研修（上田広域） ・多職種連携会議 ・オンライン研修 難病支援の考え方と支援の視点 ・看取り研修 在宅看取り語りの場 ・認知症研修 キャラバンメイトスキルアップ研修
3 月	・ケアマネネット 令和8年度の研修について ・合同研修（みまき福祉会） 振り返りと来年の研修計画について ・認定調査員研修（上田広域） ・オンライン研修 介護情報基盤導入に向けて

<その他の活動>

- ・東御市民間事業所連絡協議会への参加
- ・認知症初期集中支援チーム会議への参加
- ・出前講座（介護保険の上手な使い方・認知症って何だろう）対応

Ⅶ その他の福祉活動支援

1. 長野県共同募金会東御市共同募金委員会事業

社会福祉法人長野県共同募金会東御市共同募金委員会の窓口組織として募金活動等に組み込みました。

(1) 赤い羽根イベント・募金活動

○街頭募金・イベント募金等の実施（原則、各日職員2人及びボランティアにより実施）

実施日：場 所	
10月1日 道の駅 雷電くるみの里	10月2日 しなの鉄道田中駅
10月3日 ナナーズ東御店	10月4日 道の駅 雷電くるみの里
10月5日 道の駅 雷電くるみの里	10月7日 やおふく東御店
10月8日 ベイシア東御店	10月9日 デリシア東御店
10月10日 ナナーズ東御店	10月14日 デリシア東御店
10月15日 やおふく東御店	10月16日 しなの鉄道田中駅
10月17日 ベイシア東御店	10月18日 道の駅 雷電くるみの里

○戸別募金・・・行政区ごと支部長へ依頼

○学校での赤い羽根募金の取り組み 市内小中学校6校へ依頼

○職域募金の依頼

東御市役所職員、信州うえだ農協職員、
東御市社協職員等

○東御市振興公社 温泉施設へ募金箱設置の依頼

○市内大手スーパー店頭等へ募金箱設置の依頼

○市内企業へ企業募金の依頼

○自動販売機募金

道の駅「雷電くるみの里」、総合福祉センター、
東御市総合福祉センター



<赤い羽根共同募金（道の駅）>

(2) 赤い羽根、歳末助け合い共同募金収納結果

◎令和7年度赤い羽根募金収納総額

5,028,022 円

<募金別内訳>

募金の種類	金 額	内 訳
戸別募金	4,538,782	5,033 戸
街頭募金	99,984	計 14 回実施
法人募金	95,000	16 法人
学校募金	21,972	市内 6 校
職域募金	54,132	東御市、社協、JA 信州うえだ東御支所
イベント募金	49,028	火のアート、福祉の森フェスほか
個人募金	9,388	7 件

その他	159,736	募金箱、繰越金、利子等
収納総額	5,028,022	

(3) 共同募金会からの配分事業

令和7年度の市社協の地域福祉事業へ配分実績 3,672,845 円

(令和6年度の収納額5,213,845 円の実績から、東御市への配分金)

<事業別配分内訳>

事業	金額	事業	金額
高齢者	854,000	その他	2,193,845
障害児・者	245,000	合 計	3,672,845
児童・青少年	380,000		

(4) 災害見舞金

・災害援護金配分 2 件 計 70,000 円

2. 日本赤十字社長野県支部東御市地区事業

(1) 赤十字奉仕団総会

- ・期 日 令和7年4月23日(水)
- ・場 所 東御市総合福祉センター 3階 講堂
- ・内 容 令和6年度東御市赤十字奉仕団事業報告及び決算報告について
令和7年度東御市赤十字奉仕団事業計画及び予算について

(2) 日赤活動資金募集会議

- ・期 日 令和7年4月23日(水)
- ・場 所 東御市総合福祉センター 3階 講堂
- ・内 容 日赤活動資金募集に係る事務説明

(3) 日赤活動資金募集総額 ・支援者数 5,030 人 ・寄付者 68 人 3,573,152 円

(4) 健康生活支援講習会

- ・期 日 令和7年6月26日(木)
- ・場 所 東御市総合福祉センター 2階 高齢者センター
- ・内 容 認知症サポーター養成講座

(5) 一日赤十字

- ・期 日 令和7年8月29日(金)
- ・場 所 東御市総合福祉センター 3階講堂
- ・内 容 避難所体験ゲーム

(6) 災害見舞

・住宅火災 2 件



<一日赤十字>

3. 被災者義援金・海外救済金

(1) ウクライナ人道危機救援金 (令和4年3月2日～受付中)

令和7年度	4件	256,934円
(令和3年度からの累計)	55件	2,794,282円

(2) 令和6年度能登半島地震災害義援金 (令和6年1月4日～受付中)

令和7年度	5件	248,364円
(令和5年度からの累計)	82件	3,948,213円

(3) 令和6年9月能登半島大雨災害義援金 (令和6年9月25日～受付中)

令和7年度	1件	196,796円
(令和6年度からの累計)	12件	438,876円

4. 社会福祉団体活動の支援

(1) 東御市福祉団体長会議

- ・日 時 令和7年4月14日 (月)
- ・会 場 東御市総合福祉センター
- ・参加者 市内福祉団体 (7 団体) の会長 及び社協・行政関係者
- ・内 容 令和7年度の団体に関わる事業についての協議及び補助金に関する連絡等

(2) 福祉団体交流会 (ボッチャ) 55,000 円

福祉団体会員相互の交流及び情報交換の場の提供及びユニバーサルスポーツを通じた「誰もが幸せを感じられるまちづくり」の推進を目指し、ボッチャ競技を通じた交流会を実施しました。

- ・日 時 令和7年6月2日 (月)
- ・会 場 東御市第2体育館
- ・参加者 福祉団体関係者、審判員、来賓等 112 人
- ・内 容 体操、ボッチャ、表彰式ほか交流

(3) 福祉団体活動補助金 1,230,000 円

- | | |
|------------|-----------|
| ○身体障害者福祉協会 | 310,000 円 |
| ○手をつなぐ育成会 | 115,000 円 |
| ○シニアクラブ連合会 | 100,000 円 |
| ○遺族会 | 530,000 円 |
| ○更生保護女性会 | 55,000 円 |
| ○保護司会 | 120,000 円 |

(4) 障がい者福祉のつどい実行委員会

- ・第1回 9月3日 総合福祉センター 「障がい者福祉のつどいの内容について」
 - ・第2回 10月6日 総合福祉センター 「障がい者福祉のつどいの詳細案について」
 - ・第3回 12月8日 「障がい者福祉のつどいの振り返りについて」
- 会 場 東御市総合福祉センター
構成員 市内福祉団体 (7 団体) の会長及び民間介護事業所連絡協議会会長